



平成23年度秋の企画展

# 西山コレクション -奥津軽の至宝-

長年にわたって収集された西山コレクションは、考古・歴史・民俗・美術など多岐にわたり、中泊町有形文化財に指定されている資料も多数含まれます。奥津軽の歴史を物語る秘蔵のコレクションをこの機会にぜひご覧ください。

2011.10.15sat-12.11sun

開館時間 9:00~16:45(最終入館16:15)  
休館日 毎週月曜日・毎月第4木曜日・祝日  
入館料 一般200円 高校・学生100円 小・中学生50円  
津軽鉄道津軽中里駅下車徒歩15分/問合せ 0173-69-1111



伝五所川原市五月女落遺跡出土遺物



蝦夷錦打敷



養虫山人画屏風図



阿弥陀如来真伝仏

西願寺青玉



寺受証文



養虫山人画富士山図

養虫山人画大仙山図

青森県中泊町博物館



平成 23 年度秋の企画展「西山コレクション—奥津軽の至宝—」は、小泊在住西山徹氏所蔵のコレクションを一堂で紹介したものです。西山家は、開祖以来代々浄土真宗西願寺の住職を務める傍ら、教育者あるいは郷土研究者として、熱心に地域の文化財保護に取り組んでこられました。

長年にわたって収集された西山コレクションは、町有形文化財に指定されている「阿弥陀如来像貞伝金仏」「寺請証文」「蓑虫山人屏風画」「打敷蝦夷錦」「西願寺青玉」をはじめ、考古・歴史・民俗・美術など多岐にわたります。奥津軽の歴史を物語る秘蔵のコレクションをご高覧いただければ幸いです。

最後に、本企画展開催に御快諾いただいた西山徹氏に衷心より感謝申し上げます、あいさつに代えさせていただきます。

平成 24 年 2 月

中泊町博物館

## 五月女范遺跡（五所川原市十三地区）出土資料

五月女范遺跡は、十三湖北岸の砂丘上に立地する遺跡。昭和56年（1981）市浦村教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文晩期の<sup>おおぼら</sup>大洞B～A式の土器・石器・石製装身具・<sup>じゅうこつ</sup>獣骨等が出土し、晩期の<sup>せいえん</sup>製塩土器も確認された。

また平成17年（2005）・平成19年（2007）～現在、五所川原市教育委員会による調査が継続しており、縄文時代後期末葉より晩期後葉に至る遺物包含層<sup>ほうかんそう</sup>ほか、弥生時代後期の<sup>ぞくじょうもんどき</sup>続縄文土器や奈良時代の<sup>はじき</sup>土師器が確認されている。

また、五月女范遺跡出土と伝えられる本資料群は、縄文時代晩期を主体としながらも、縄文時代前期中葉ころから弥生前期に至るまでの資料が含まれる。日本海・岩木川水運の要衝に位置する五月女范遺跡は、各時期を通じて本州文化と北海道文化の交流拠点としての役割を果たしていたと考えられる。



### 縄文時代晩期以前の土器



001 深鉢形土器 縄文前期中葉  
口径 18.7cm 器高 26.0cm



002 深鉢形土器 縄文前期後葉  
口径 16.5cm 器高 40.4cm



003 深鉢形土器 縄文前期後葉  
口径 19.8cm 器高 46.5cm



004 深鉢形土器 縄文中期中葉  
口径 28.3cm 器高 29.3cm



005 深鉢形土器 縄文後期中葉  
口径 22.8cm 器高 29.3cm



006 深鉢形土器 縄文後期後葉  
口径 34.7cm 器高 32.0cm





007 注口土器 縄文後期後葉  
口径 8.8cm 器高 10.4cm



008 袖珍土器 縄文後期  
口径 3.4cm 器高 6.2cm



009 鉢形土器 縄文後期  
口径 12.0cm 器高 9.0cm

## 縄文時代晩期の土器

### 【晩期前葉の土器】

深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・皿・壺・注口土器・香炉形土器から構成され、各器種の器形やサイズは変化に富む。

文様は上半部に施文されるものが多く、入組三叉文や羊歯状文が多用される。



入組三叉文



羊歯状文

### 【晩期中葉の土器】

深鉢・鉢・台付鉢・浅鉢・皿・壺・注口土器などから構成されるが、各器種のバリエーションは少なくなる。文様は磨消縄文が発達して大腿骨文・雲形文などが描かれる。装飾的な突起や刻み目が発達する。



大腿骨文



Z字状文

### 【晩期前葉の土器】

壺・浅鉢・台付浅鉢・深鉢で構成され、香炉形・注口は消滅もしくは激減する。

磨消縄文がなくなり、工字文や三角形や波状などのモチーフからなる変形工字文が主体となる。



工字文

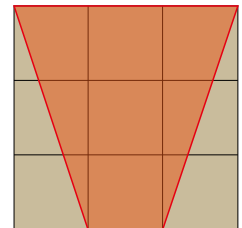


変形工字文

### 【深鉢・鉢形土器】

深鉢・鉢形土器は、煮炊用・貯蔵用容器として縄文時代草創期から晩期に至るまで中心的な役割を果たした。晩期の深鉢形・鉢形土器は、口径 20cm 前後の小形品が中心であり、口径 30 ~ 40cm に達する大形品は少ない。

また、煮炊用の土器は、縄文が施文されただけの実用的なつくりのものが多い。



010 鉢形土器 縄文晩期  
口径 6.5cm 器高 6.2cm



011 鉢形土器 縄文晩期  
口径 9.6cm 器高 8.8cm



012 鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.7cm 器高 9.6cm



013 鉢形土器 縄文晩期  
口径 12.1cm 器高 8.1cm



014 鉢形土器 縄文晩期 口径 7.2cm 器高 4.8cm



015 鉢形土器 縄文晩期 口径 10.5cm 器高 7.2cm



016 鉢形土器 縄文晩期 口径 12.8cm 器高 8.9cm



017 鉢形土器 縄文晩期 口径 13.1cm 器高 8.1cm



018 鉢形土器 縄文晩期  
口径 9.6cm 器高 8.0cm



019 鉢形土器 縄文晩期  
口径 9.5cm 器高 7.5cm



020 鉢形土器 縄文晩期  
口径 10.9cm 器高 9.6cm



021 鉢形土器 縄文晩期  
口径 9.8cm 器高 10.0cm



022 鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.2cm 器高 9.7cm



023 鉢形土器 縄文晩期  
口径 10.0cm 器高 7.2cm



024 鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.2cm 器高 8.3cm



025 鉢形土器 縄文晩期  
口径 15.0cm 器高 10.6cm



026 鉢形土器 縄文晩期  
口径 8.5cm 器高 7.0cm



027 鉢形土器 縄文晩期  
口径 9.9cm 器高 6.7cm



028 鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.2cm 器高 8.1cm



029 鉢形土器 縄文晩期  
口径 19.0cm 器高 14.7cm



030 小形鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 7.7cm 器高 6.6cm



031 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 12.1cm 器高 8.6cm



032 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 9.6cm 器高 7.0cm



033 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 11.5cm 器高 7.1cm



034 鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 10.4cm 器高 8.4cm



035 鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 10.1cm 器高 8.7cm



036 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 16.0cm 器高 10.0cm



037 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 15.6cm 器高 10.7cm



038 鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 16.5cm 器高 12.3cm



039 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 14.5cm 器高 9.0cm



040 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 16.3cm 器高 8.1cm





041 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 16.8cm 器高 10.6cm



042 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 16.5cm 器高 9.6cm



043 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 14.4cm 器高 8.4cm



044 鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 21.8cm 器高 12.9cm



045 鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 24.2cm 器高 12.8cm



046 鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 21.0cm 器高 12.1cm



047 鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 19.6cm 器高 10.2cm





048 深鉢形土器 縄文晩期前葉  
口径 14.5cm 器高 14.8cm



049 深鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 9.4cm 器高 11.2cm



050 深鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 7.9cm 器高 8.4cm



051 深鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 12.0cm 器高 10.4cm



052 深鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 16.0cm 器高 13.8cm



053 深鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 16.4cm 器高 16.7cm



054 鉢形土器 縄文晩期  
口径 13.5cm 器高 12.9cm



055 鉢形土器 縄文晩期  
口径 10.4cm 器高 9.5cm



056 鉢形土器 縄文晩期  
口径 12.4cm 器高 11.8cm



057 鉢形土器 縄文晩期  
口径 21.5cm 器高 14.5cm



058 深鉢形土器 縄文晩期  
口径 19.0cm 器高 20.5cm



059 深鉢形土器 縄文晩期  
口径 21.7cm 器高 33.8cm



060 深鉢形土器 縄文晩期  
口径 26.5cm 器高 36.8cm



061 台付鉢形土器 縄文晩期前葉  
口径 8.6cm 器高 10.4cm



062 台付鉢形土器 縄文晩期前葉  
口径 13.8cm 器高 10.5cm



063 台付鉢形土器 縄文晩期前葉  
口径 14.5cm 器高 13.3cm



064 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 7.7cm 器高 7.1cm



065 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 10.7cm 器高 8.7cm



066 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 15.1cm 器高 13.2cm



067 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 12.1cm 器高 9.7cm



068 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 9.1cm 器高 7.5cm



069 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 17.3cm 器高 10.0cm



070 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 12.0cm 器高 8.6cm



071 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 11.4cm 器高 7.4cm



072 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 12.5cm 器高 10.7cm



073 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 9.5cm 器高 9.8cm



074 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 13.2cm 器高 9.6cm



075 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 11.8cm 器高 10.6cm



076 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 16.5cm 器高 14.8cm



077 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 18.0cm 器高 14.9cm



078 台付鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 14.1cm 器高 11.6cm



079 台付深鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 23.0cm 器高 26.8cm

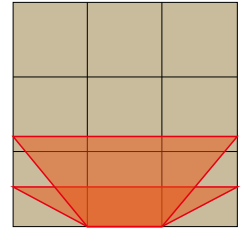


080 台付深鉢形土器 縄文晩期後葉  
口径 22.8cm 器高 28.3cm



【皿形・浅鉢形土器】

盛り付けに用いられたと考えられる皿形・浅鉢形土器は口径 15～20cm ものが多い。口縁は平縁が一般的であるが、突起や透かし彫りなどの装飾がみられるものもある。外面には磨消縄文や沈線などの文様が施されるが、文様がなく黒色に研磨、あるいは赤漆や黒漆が塗られたものも認められる。



083 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 20.0cm 器高 6.8cm

081 皿形土器 縄文晩期前葉  
口径 13.3cm 器高 3.5cm



082 皿形土器 縄文晩期前葉  
口径 9.8cm 器高 4.7cm

084 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 18.5cm 器高 6.5cm

085 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 17.8cm 器高 6.4cm



087 皿形土器 縄文晩期中葉 口径 20.7cm 器高 3.3cm

086 皿形土器 縄文晩期中葉 口径 26.0cm 器高 6.0cm



088 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 16.2cm 器高 5.9cm

089 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 13.6cm 器高 4.8cm

090 皿形土器 縄文晩期  
口径 14.0cm 器高 5.4cm



091 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 17.4cm 器高 3.2cm



095 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 13.2cm 器高 4.7cm



099 皿形土器 縄文晩期  
口径 17.8cm 器高 5.5cm



092 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 13.2cm 器高 4.3cm



093 皿形土器 縄文晩期中葉  
口径 11.9cm 器高 2.7cm



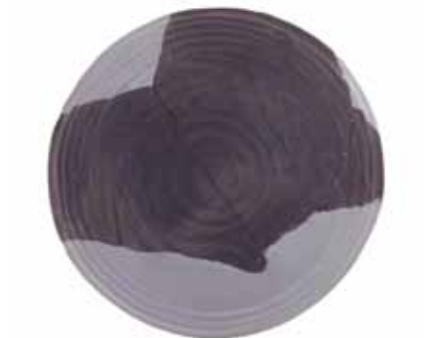
094 皿形土器 縄文晩期 口径 12.6cm 器高 5.1cm



096 皿形土器 縄文晩期  
口径 13.3cm 器高 4.1cm



097 皿形土器 縄文晩期  
口径 16.0cm 器高 5.0cm



098 皿形土器 縄文晩期後葉  
口径 12.5cm 器高 3.5cm



100 皿形土器 縄文晩期後葉  
口径 17.6cm 器高 5.6cm





101 皿形土器 縄文晩期後葉 口径 19.0cm 器高 6.4cm



102 皿形土器 縄文晩期後葉 口径 22.2cm 器高 6.2cm



103 皿形土器 縄文晩期  
口径 10.3cm 器高 4.9cm



104 皿形土器 縄文晩期  
口径 12.6cm 器高 7.2cm



105 皿形土器 縄文晩期  
口径 17.1cm 器高 6.6cm





106 浅鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 11.8cm 器高 6.1cm



107 浅鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 9.9cm 器高 5.2cm



108 浅鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 19.0cm 器高 9.3cm



109 浅鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 19.0cm 器高 6.3cm



110 浅鉢形土器 縄文晩期中葉 口径 15.2cm 器高 6.0cm



111 浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 11.5cm 器高 5.2cm



112 浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 13.8cm 器高 5.4cm



113 浅鉢形土器 縄文晩期 口径 10.4cm 器高 7.4cm



114 浅鉢形土器 縄文晩期  
口径 10.7cm 器高 4.9cm



115 浅鉢形土器 縄文晩期  
口径 18.8cm 器高 7.9cm



116 浅鉢形土器 縄文晩期  
口径 16.3cm 器高 6.5cm



117 浅鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.0cm 器高 6.8cm



118 浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 31.0cm 器高 12.5cm



119 台付浅鉢形土器 縄文晩期  
口径 11.0cm 器高 6.0cm



120 台付浅鉢形土器 縄文晩期前葉 口径 18.2cm 器高 7.7cm



121 台付鉢土器 縄文晩期中葉 口径 14.0cm 器高 11.0cm



122 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 11.9cm 器高 8.5cm



123 台付浅鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 14.0cm 器高 8.8cm



124 台付鉢形土器 縄文晩期中葉  
口径 13.5cm 器高 8.4cm





125 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 27.6cm 器高 14.5cm



126 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 14.8cm 器高 9.1cm



127 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 19.7cm 器高 10.8cm



128 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 15.6cm 器高 10.0cm



129 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 16.0cm 器高 8.0cm



130 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 27.6cm 器高 14.5cm



131 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 18.8cm 器高 9.0cm



132 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 17.6cm 器高 8.5cm



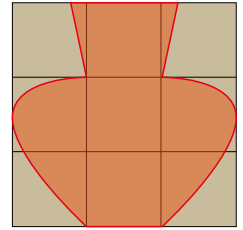
133 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 15.5cm 器高 8.3cm



134 台付浅鉢形土器 縄文晩期後葉 口径 19.1cm 器高 8.8cm

つぼ  
【壺形土器】

口がすぼまった<sup>つぼ</sup>壺形土器は、果実酒・油・薬・樹液ほかの液体を貯蔵したと考えられる。  
精緻な文様が施されたもの、あるいは<sup>けんま</sup>研磨されたもの、外面全体に<sup>あかうろし</sup>赤漆の塗られたものも多く認められることから、一部の土器は<sup>さいし</sup>祭祀などに用いられたものものと考えられる。



135 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.7cm 器高 9.2cm



136 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.9cm 器高 9.0cm



137 壺形土器 縄文晩期  
口径 4.9cm 器高 8.1cm



138 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.5cm 器高 9.1cm



139 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.2cm 器高 10.4cm



140 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.5cm 器高 10.4cm



141 壺形土器 縄文晩期中葉  
口径 8.4cm 器高 11.8cm



142 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.9cm 器高 10.0cm



143 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.0cm 器高 13.8cm





144 壺形土器 縄文晩期  
器高 7.4cm



145 壺形土器 縄文晩期  
器高 7.4cm



146 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.2cm 器高 7.8cm



147 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.0cm 器高 10.2cm



148 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.0cm 器高 13.0cm



149 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.7cm 器高 14.5cm



150 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.6cm 器高 17.5cm



151 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.1cm 器高 11.2cm



152 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.5cm 器高 14.0cm



153 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.5cm 器高 17.4cm



154 壺形土器 縄文晩期中葉  
口径 7.6cm 器高 15.0cm



155 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.7cm 器高 16.0cm



156 壺形土器 縄文晩期中葉  
口径 10.0cm 器高 20.7cm



157 壺形土器 縄文晩期中葉  
口径 6.9cm 器高 15.2cm



158 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 6.5cm 器高 19.5cm



159 壺形土器 縄文晩期  
器高 10.8cm



160 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.2cm 器高 13.0cm



161 壺形土器 縄文晩期  
器口径 5.8cm 器高 8.8cm



162 壺形土器 縄文晩期  
器高 19.8cm



163 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.2cm 器高 12.8cm



164 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.0cm 器高 13.4cm



165 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.3cm 器高 14.8cm



166 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.5cm 器高 15.0cm



167 壺形土器 縄文晩期  
口径 10.1cm 器高 24.5cm



168 壺形土器 縄文晩期  
口径 9.4cm 器高 27.7cm



169 壺形土器 縄文晩期後葉  
口径 12.4cm 器高 35.5cm



170 漆塗壺形土器 縄文晩期 口径 14.5cm 器高 52.0cm





171 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 5.8cm 器高 10.4cm



172 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 7.5cm 器高 14.7cm



173 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 7.7cm 器高 13.2cm



174 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 8.2cm 器高 12.8cm



175 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 6.6cm 器高 11.6cm



176 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 4.9cm 器高 11.8cm



177 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 10.2cm 器高 16.0cm



178 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 9.0cm 器高 12.0cm



179 小形壺形土器 縄文晩期中葉 口径 5.0cm 器高 8.2cm



180 小形壺形土器 縄文晩期後葉 口径 6.3cm 器高 10.3cm



181 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 9.0cm 器高 14.5cm



182 壺形土器 縄文晩期後葉 口径 18.2cm 器高 25.5cm



183 壺形土器 縄文晩期  
口径 2.1cm 器高 8.4cm



184 壺形土器 縄文晩期  
口径 3.4cm 器高 13.2cm



185 壺形土器 縄文晩期  
口径 2.9cm 器高 10.0cm





186 小形壺形土器 縄文晩期前葉 口径 2.1cm 器高 11.1cm



187 壺形土器 縄文晩期  
器高 8.0cm



188 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.5cm 器高 9.0cm



189 壺形土器 縄文晩期  
器高 10.0cm



190 壺形土器 縄文晩期  
口径器高 10.5cm



191 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.1cm 器高 9.3cm



192 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.8cm 器高 7.9cm



193 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.7cm 器高 9.8cm



194 壺形土器 縄文晩期  
口径 4.9cm 器高 8.8cm



195 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.5cm 器高 11.4cm



196 壺形土器 縄文晩期  
口径 7.3cm 器高 10.5cm



197 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.1cm 器高 10.8cm



198 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.2cm 器高 12.0cm



199 小形壺形土器 縄文晩期  
口径 5.8cm 器高 8.5cm



200 小形壺形土器 縄文晩期  
口径 3.6cm 器高 8.5cm



201 小形壺形土器 縄文晩期  
口径 5.9cm 器高 9.2cm



202 壺形土器 縄文晩期  
口径 9.1cm 器高 15.9cm



203 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.5cm 器高 14.5cm



204 壺形土器 縄文晩期  
口径 5.0cm 器高 13.8cm



205 壺形土器 縄文晩期  
口径 3.1cm 器高 12.6cm



206 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.8cm 器高 14.0cm



207 壺形土器 縄文晩期  
口径 6.8cm 器高 15.1cm



208 壺形土器 縄文晩期  
口径 8.1cm 器高 16.4cm



209 壺形土器 縄文晩期  
器高 15.1cm



210 壺形土器 縄文晩期 口径 6.7cm 器高 29.2cm



211 壺形土器 縄文晩期前葉 口径 12.2cm 器高 10.4cm



212 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 12.6cm 器高 10.5cm



213 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 4.5cm 器高 15.5cm



214 壺形土器 縄文晩期中葉 器高 18.2cm



215 壺形土器 縄文晩期中葉 口径 5.3cm 器高 12.5cm



216 壺形土器 縄文晩期後葉 口径 5.1cm 器高 16.2cm





217 小形壺形土器 縄文晩期 口径 3.3cm 器高 8.3cm



218 小形壺形土器 縄文晩期後葉 口径 4.6cm 器高 9.7cm



219 壺形土器 縄文晩期後葉 口径 16.4cm 器高 29.7cm



220 壺形土器 縄文晩期後葉 口径 9.2cm 器高 26.5cm

ちゆうこう  
【注口土器】

つぼ 壺形あるいは急須形に注ぎ口きゆうすがつけられたもの。晩期前葉のものは器高が高く、後葉になるにしたがって低くなり、出土量も少なくなる。

こうえん 口縁に透かし彫りや突起で装飾したのもみられ、酒などの液体を入れて祭祀さいしに用いられたと考えられる。



221 注口土器 縄文晩期前葉 口径 10.0cm 器高 15.7cm



222 注口土器 縄文晩期前葉 口径 11.7cm 器高 12.5cm



223 注口土器 縄文晩期前葉 口径 9.1cm 器高 12.7cm



224 注口土器 縄文晩期前葉 口径 7.5cm 器高 11.1cm



225 注口土器 縄文晩期前葉 口径 7.6cm 器高 9.8cm



226 注口土器 縄文晩期前葉 口径 5.3cm 器高 6.0cm



227 注口土器 縄文晩期前葉 口径 11.0cm 器高 14.0cm



228 注口土器 縄文晩期前葉 口径 10.2cm 器高 14.4cm



229 注口土器 縄文晩期前葉 口径 7.0cm 器高 11.3cm



230 注口土器 縄文晩期前葉 口径 4.6cm 器高 7.0cm



231 注口土器 縄文晩期前葉  
口径 6.7cm 器高 9.8cm



232 注口土器 縄文晩期前葉  
口径 6.9cm 器高 10.4cm



233 注口土器 縄文晩期前葉  
口径 5.8cm 器高 7.3cm



234 注口土器 縄文晩期中葉 口径 5.7cm 器高 7.8cm



235 注口土器 縄文晩期中葉 口径 6.8cm 器高 6.5cm







244 袖珍土器 縄文晩期  
口径 4.5cm 器高 4.6cm



245 袖珍土器 縄文晩期  
口径 3.5cm 器高 8.3cm



246 袖珍土器 縄文晩期  
口径 3.5cm 器高 7.0cm



247 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.5cm 器高 5.3cm



248 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.7cm 器高 4.0cm



249 袖珍土器 縄文晩期  
口径 4.3cm 器高 6.0cm



250 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.1cm 器高 3.7cm



251 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.5cm 器高 3.9cm



252 袖珍土器 縄文晩期  
口径 1.9cm 器高 4.4cm



253 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.1cm 器高 4.0cm



254 袖珍土器 縄文晩期  
口径 3.0cm 器高 2.7cm



255 袖珍土器 縄文晩期  
口径 5.0cm 器高 2.0cm



256 袖珍土器 縄文晩期  
口径 4.0cm 器高 1.1cm



257 袖珍土器 縄文晩期  
口径 6.9cm 器高 1.4cm



258 袖珍土器 縄文晩期  
口径 5.4cm 器高 2.3cm



259 袖珍土器 縄文晩期  
口径 5.9cm 器高 1.1cm



260 袖珍土器 縄文晩期  
口径 2.2cm 器高 1.8cm



261 袖珍土器 縄文晩期  
口径 4.0cm 器高 1.5cm

どぐう どぼん せきぼう せきとう  
【土偶・土版・石棒・石刀・玉類】

縄文社会では、超自然的・神秘的な力をかりて種々の現象を起こそうとする信仰体系（呪術）とそのための道具（呪具）が多く認められる。

とくに晩期には、遮光器土偶<sup>しやこうきどぐう</sup>といった晩期特有の土偶をはじめ、石棒<sup>せきぼう</sup>・石刀<sup>せきとう</sup>といった石製の呪具が発展した。



263 遮光器土偶 縄文晩期中葉 高さ 9.7cm



262 遮光器土偶 縄文晩期前葉 高さ 27.0cm

264 中空土偶 縄文晩期後葉 22.5cm × 15.5cm



265 土偶頭部 縄文晩期 6.3cm



266 土偶頭部 縄文晩期 6.2cm



267 土偶頭部 縄文晩期 4.9cm





268 土偶頭部 縄文晩期 3.2cm



269 土偶 縄文晩期 6.3cm



270 土偶 縄文晩期 6.2cm



271 土偶 縄文晩期 6.0cm



272 土偶 縄文晩期 4.9cm



273 土偶 縄文晩期 4.2cm



274 土偶 縄文晩期 5.0cm



275 土偶 縄文晩期 4.3cm



276 土偶 縄文晩期 4.2cm



277 土偶 縄文晩期 5.0cm



278 土偶 縄文晩期 4.4cm



279 土偶 縄文晩期 4.6cm



280 土偶 縄文晩期 3.6cm



281 土偶 縄文晩期 9.5cm



282 土偶  
縄文晩期 3.5cm



283 土偶  
縄文晩期 3.2cm



284 土偶  
縄文晩期 5.3cm



285 土偶  
縄文晩期 2.2cm



286 土偶  
縄文晩期 8.4cm



287 琴形土版 縄文晩期 12.5cm×11.0cm



288 土偶 縄文晩期 8.2cm



289 土偶 縄文晩期 4.5cm



290 石版 縄文晩期 6.5cm



291 土製耳飾 縄文晩期



292 石製勾玉 縄文晩期



293 土製勾玉 縄文晩期



294 土製玉 縄文晩期



295 石製玉 縄文晩期



296 石刀 縄文晩期 26.1cm

297 石棒 縄文晩期 43.5cm

298 石刀 縄文晩期 37.4cm



299 石刀 縄文晩期 14.0cm

300 石刀 縄文晩期 10.7cm

301 石棒 縄文晩期 11.4cm

302 石刀 縄文晩期



【石 器】



303 磨製石斧 縄文晩期 ほか



304 石鏃 縄文晩期 ほか



305 石鏃 縄文晩期 ほか



306 石鏃 縄文晩期 ほか



307 石鏃 縄文晩期 ほか



308 石鏃 縄文晩期 ほか



309 石鏃 縄文晩期 ほか



310 槍先形尖頭器ほか 縄文晩期 ほか



311 石筈 縄文晩期 ほか



312 石匙 縄文晩期 ほか



313 石匙 縄文晩期 ほか



314 石匙 縄文晩期 ほか



315 石匙 縄文晩期 ほか



316 玉砥石 縄文晩期 10.2cm×6.6cm



317 磨石 縄文晩期 16.6cm×7.8cm



318 磨石 縄文晩期 16.0cm



319 凹み石 縄文晩期 24.0cm×12.0cm



320 石皿 縄文晩期 47.0cm×36.5cm



321 石皿 縄文晩期 45.0cm×40.0cm



322 石皿 縄文晩期 44.0cm×34.0cm



323 石皿 縄文晩期 27.0cm×16.5cm

## 出土地不明資料



324 壺形土器 続縄文前半期（弥生）口径7.2cm 器高15.8cm



## 西願寺所蔵資料

### 蓑虫山人画

放浪の画人として知られる蓑虫山人は、天保 7 年（1836）美濃国（岐阜県）安八郡結村に生まれた。本名は土岐源吾、ほかに「蓑虫（蟲）仙人」「三府七十二縣庵主（人）」「六十六庵主（人）」とも号した。

嘉永 2 年（1849）14 歳のときに郷里を出て以来、48 年間にわたって諸国を放浪し、その足跡は全国各地に残されている。生活用具一式を背負い、時には折りたたみ自在の寝帳に一夜を過ごす山人の旅は、九州地方を手はじめに、中国・近畿・東海・関東を経て、明治 10 年（1877）北奥羽地方へ及んだ。

山人にとって、北奥羽の風土は居心地の良いものであったらしく、放浪の旅を終える明治 29 年（1896）まで毎年のように来遊し、佐藤部・広沢安任ほか多くの地元人々と交流を結んだ。

山人は、青森県をはじめとする北奥羽各地へ長期にわたって逗留する傍ら、名勝や文化財あるいは寄留先の様子などを詳細に記録に残した。近代の北奥羽地方の雰囲気如実に伝えるそれらの資料群は、民俗学研究の一級資料として評価されている。

また考古学に対してはとくに深い関心を抱き、多くの遺物を収集しつつ、明治 20 年（1887）には木造町亀ヶ岡遺跡の発掘調査を手がけている。この調査の様態を記す書簡は、「人類学雑誌」に掲載され、同遺跡の名を全国に広げる役割を果たした。

諸国歴遊の旅を終えた後は、名古屋市長母寺に寄寓する傍ら、自らが収集した資料を展示する「六十六庵」建設を構想したが、果たせないまま明治 33 年（1900）65 年の生涯を終えた。



325 大日本富士山之図  
明治 12 年 128.5cm× 49.5cm  
[中泊町指定文化財]



326 大仙山之図  
明治 12 年 124cm× 51cm  
[中泊町指定文化財]



327 人物図 明治 16 年 128.5cm× 49.5cm [中泊町指定文化財]

## 仏教関連資料

### 貞伝仏

「貞伝仏」は青森県東津軽郡今別町に所在する浄土宗本覚寺第五世住職貞伝上人（1690～1731）が晩年に製作した鑄銅仏であり、「万体仏」等の名称でも知られる。

享保元年（1716）本覚寺住職に就任した貞伝は、多聞天堂の建立、本堂の再建、撞鐘鑄造など同寺の振興に努める傍ら、蝦夷地布教、彫刻・仏像等の制作、漁法指導など多方面にわたって活躍し、現在でも外ヶ浜地域では崇敬の対象となっている。

### 貞伝の彫刻

貞伝は、万体仏以外にも多数の仏像・彫刻を手がけたとされる。本覚寺には、青銅塔婆（青森県重宝）・本堂欄間・多聞天像・石佛（今別町指定文化財）ほかの貞伝作資料が残されている。

中泊町上高根地区にある西光庵（深郷田浄土宗善導寺末庵、天明3年（1783）善導寺住職廊道が開基建立したとされる）の本尊石造阿弥陀如来坐像も、貞伝の作と伝えられている。また北海道伊達市に所在する浄土宗有珠善光寺の本尊鑄造阿弥陀如来像、松前藩菩提寺曹洞宗宗圓寺（小樽市＊元来は松前にあったとされる）の本尊木造丈六釈迦如来坐像ならびに五百羅漢像（北海道指定有形文化財）は、貞伝の造仏とされている。

### 万体仏制作の経緯

貞伝上人の事績を記した「貞伝上人東域念仏利益伝」によれば、享保12年（1727）貞伝は、古金物など700貫を募り、「青銅塔婆（県重宝）」を建立した。さらに余った地金で、享保15年（1730）長さ一寸二分の阿弥陀像一万体を鑄造し、弘前市誓願寺本堂復興のため、浄財とひきかえに信者に与えたとされる。

### 万体仏の遺存状況

享保15年（1730）誓願寺において配られた万体仏は、津軽地方を中心に、南は新潟県から北は北海道まで広範囲にわたって遺存が確認されている。西北五地方では、小泊7体、中里3体、五所川原市1体、板柳町1体の計8体、このほか弘前市12体、今別町2体、平川市2体ほかが知られている。県外では、北海道福島町に7体、隣接する松前町内にも多数残されている。石狩場所請負人であった石狩市阿部屋村山家に1体伝世するほか、十勝地方広尾町に所在する禅林寺にも1体保存されている。さらに新潟県糸魚川市にも1体確認されており、漁民・船乗り達の信仰によって日本海を通じて拡散している様子が見て取れる。詳細は不明であるが、現時点では、津軽海峡を挟んだ小泊ならびに松前地方に分布の中心が存在するようである。

### 万体仏にまつわる信仰

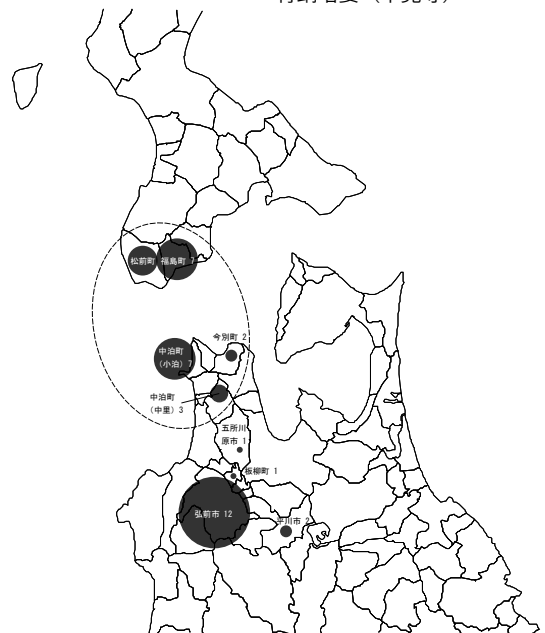
万体仏は、一般にお守り用の携帯仏として使用されたほか、副葬か単独埋納かは不明であるが、海満寺・五所川原市資料のように土中から発見された資料も認められる。また北海道福島町では、幸運をもたらす仏像として、松前町では海上安全・豊漁の仏様として信仰されているという。石狩市阿部屋村山家伝世品も、海難よけのお守りとして船乗りや漁業者の信仰を集めていたとされる。万体仏信仰の一端に、漁民や船乗りたちが介在することは明らかであり、津軽海峡を挟んだ地域に万体仏が多く分布する理由も、それらの信仰の一環と理解される。



貞伝作と伝えられる西光庵本尊



青銅塔婆（本覚寺）



貞伝仏遺存分布

### 寂導仏

黒石市黒森山浄仙寺（浄土宗）二世住職寂導（1812～1904）が制作した仏像。寂導は、文政 8 年（1825）13 歳で浄仙寺を開山した是空の弟子となり、修行と造仏に取り組んだ。一刀彫を特徴とする寂導仏は、浄仙寺をはじめ津軽一円に多数残されている。



328 寂導仏 高さ 7.5cm

### 意全仏

青森市無量山正覚寺（浄土宗）第二十三世住職意全によって 19 世紀前半ころ制作された仏像。意全は、弘前市西光寺を皮切りに、五所川原市十三湊迎寺を経て、青森市正覚寺に就任した。意全仏は貞伝仏よりやや大きく、背面に「意全作」との刻書が認められ、北海道開拓記念館ほか、長万部町・利尻町、青森県では旧市浦村等で確認されている。

### 普文仏

五所川原市十三湊栄山願竜寺（浄土真宗）住職普文が制作した仏像。



329 貞伝仏  
[中泊町指定文化財]  
江戸中期 高さ 4.4cm



330 貞伝仏  
[中泊町指定文化財]  
江戸中期 高さ 4.6cm



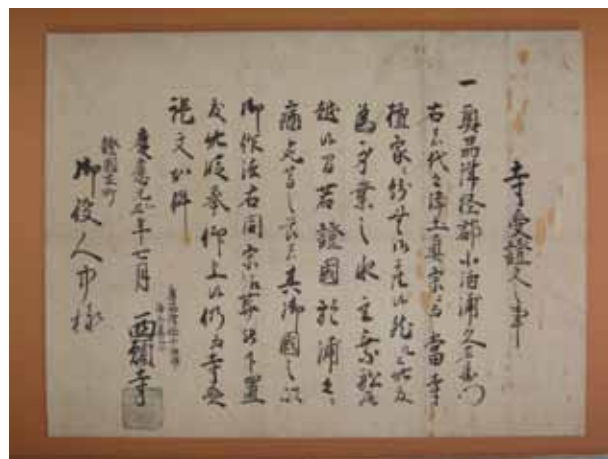
331 意全仏  
江戸後期 高さ 5.1cm



332 普文仏 高さ 7.5cm

### 寺請証文

西願寺が門徒に発行した身分証明書。キリシタンではないことを寺が証明するものであり、旅先などで提示した。小泊の久左衛門（加藤久六家）が所有したものである。旅先で病死した際は、真言の作法による埋葬をしてくださいなどの内容が記されている。



333 寺受証文 [中泊町指定文化財] 慶応元年（1865）

### 蝦夷錦打敷

天明 2 年（1782）越後屋権■、駒屋孫右衛門両人が西願寺に寄進した牡丹文の赤地絹織物。

元来蝦夷錦は清朝が周辺民族に下賜した絹織物の官服・反物であり、山丹交易（山丹人と樺太アイヌとの交易。のち和人の厳重な管轄下におかれるようになった）によって当時の蝦夷地や本州にもたらされたものと考えられている。

また、蝦夷錦打敷には、「天明式壬寅年十一月 西願寺重物 志主 越後屋権■、駒屋孫右衛門」「大小二ノ内■智教代四十二才ニテ死」との裏書墨書がある。年代がわかるものとしては青森県内最古の資料である。





334 蝦夷錦打敷 [中泊町指定文化財] 江戸

## 青 玉

### 「青玉」とは

青玉は、アイヌ民族が好んで着用したガラス製のいわゆる「アイヌ玉」であり、「虫巣玉」「山丹玉」とも称された。アイヌの人びとの装身具の中でも、ガラス玉だけで作った首飾りを「タマサイ (tama-say)」、金属製の装飾板を伴ったものを「シトキ (sitoki)」と呼ぶが(日本民具学会編 1999『日本民具事典』)、青玉はいずれにも用いられる。

西願寺青玉は、小泊地区旧家より浄土真宗西願寺にもたらされたものを、先代住職が2連の数珠に改装したものであるが、本来は鱒ヶ沢町来生寺所蔵の数珠も加えて一繋がりであったとされる。

### 青森県内所在の青玉

青森県内所在の青玉については、遺跡出土資料を除くと、西願寺のほか、鱒ヶ沢町来生寺と深浦町円覚寺に所在する(青森県立郷土館 2004『蝦夷錦と北方交易』)。うち来生寺蔵の資料は、西願寺より分割されたものであることから、県内には少なくとも西願寺蔵ならびに円覚寺蔵の2種類の青玉群が存在したことになる。

なお両寺ともに、「蝦夷錦」が確認されている。元来蝦夷錦は清朝が周辺民族に下賜した絹織物の官服・反物であり、山丹交易(山丹人(ウィルタ・ニブフ等の黒龍江下流域に住む北方民族)と樺太アイヌとの交易。のち和人の厳重な管轄下におかれるようになった。)によって当時の蝦夷地や本州にもたらされたものと考えられている(青森県立郷土館 2004『蝦夷錦と北方交易』)。

中村和之氏は、それらの交易ルートについて、北京からアムール川を下り、間宮海峡を渡ってサハリン、そして蝦夷地を経て、本州に至る 5,000kmに達する長大なものを想定し、アイヌ民族により重要視された青玉もこれらのルートによってもたらされた可能性を説いている(中村和之 2004「蝦夷錦・青玉と北方交易」『蝦夷錦と北方交易』青森県立郷土館)。



アイヌ玉を装着するアイヌ女性『蝦夷島奇観(北海道開拓記念館蔵)』



タマサイ(左)・シトキ(右)

(市立函館博物館蔵)

西願寺青玉の性格

2 連の西願寺青玉と、元々同一個体であった来生寺青玉を繋げると、1 m前後の長さになることから、原型はアイヌ民族によって珍重された「タマサイ」もしくは「シトキ」だったと推定される。また西願寺青玉は、81 個の青玉から構成され、それらの長径平均値は約 7mm である。アイヌ墓から出土したタマサイ・ガラス玉を中心に考古学的な検討を加えた関根達人氏は、玉の長径を基準に、大玉（2cm以上）・中玉（1cm以上 2cm未満）・小玉（1cm未満）に分類したうえで次のような変遷過程をまとめた（関根達人 2007「タマサイ・ガラス玉に関する型式学的検討」『アイヌ文化の成立と変容—交易と交流を中心として—』法政大学国際日本学研究所）。

① 17 世紀以前のタマサイに使われているガラス玉の 9 割は、長径 1 cm未満の小玉で占められ、長径が

2 cmを超すような大型のガラス玉は存在しない。

② 16・17 世紀のタマサイは、青玉の比率が高い。

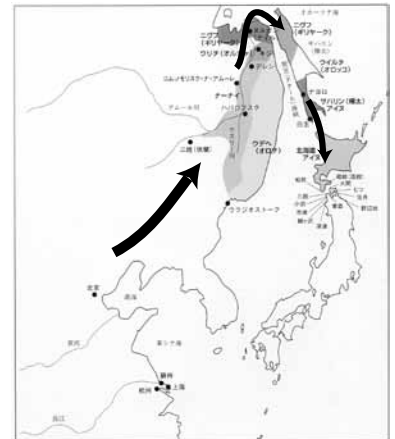
③ 18 世紀のタマサイは、ガラス玉がやや大きくなり中平玉が増えるとともに、青玉の色は、色が濃く

透明性の高い青から、透明性に欠け空色がかった青へと変化する。

また佐々木利和氏は、極東の民族事例より、直径 1cm以上の青玉については江戸や大坂でつくられた日本製のもの、1cm以下のものは大陸からもたらされた可能性が高いとしている（佐々木利和 2001『アイヌ文化誌ノート』吉川弘文館歴史文化ライブラリー 128）。西願寺青玉が、長径 1 cm未満の小玉のみで構成されること、青玉の比率が高いということからすれば、17 世紀以前に製作された大陸産のものであり、山丹交易等によってもたらされた可能性も考えられる。漁場経営や交易を通じて、蝦夷地と関わりが深かった小泊地区の歴史特性を物語る資料である。



青玉（左；鯨ヶ沢町来生寺蔵）／青玉（右；深浦町円覚寺蔵）



青玉の来た道（青森県立郷土館 2004『蝦夷錦と北方交易』に加筆）



335 青玉 [中泊町指定文化財]



336 青玉 [中泊町指定文化財]

---

---

『西山コレクション—奥津軽の至宝—』

平成 24 年（2012）2 月 12 日発行

編集・発行 中泊町博物館

〒 037-0305 青森県中泊町中里字紅葉坂 210

TEL 0173-69-1111 / FAX 0173-69-1115

---

---